

真田三代秀英記

二世扁印

七

志田三代記前篇、合巻、二、目次

一 志田小系三修治合戦 兵 志田而初、又分、二年

一 清湯見薩摩合戦 兵 志田接戦、又

一 志田信房合戦 兵 且利信房戦死、二年

一 甲府合戦 兵 昌幸、志田、運、計、り

一 信玄自己の備り 兵 志田の多り、二年

一 志田小系甲信茂の 兵 志田の接戦、又

一 志田信房合戦 兵 昌幸、小系、信房、の、戦

一 小系信房の 兵 志田信房、合戦、又

一 志田信房 兵 志田、信房、の、戦

長根刑部なるもの白念をりら初彦野侍をりけ大後にて備へしむ
西軍陣に小糸氏并る後にて一系をりたる武田源三六尾木多
志信小山田侍中ちけに後にて備へし備へし備へし備へし
後にて備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし
武田源三六尾木多志信小山田侍中ちけに後にて備へし
備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし
今日の大津ふれい此を無幾多ふしし美来ふり多敷と少し一
り色は後利信^ツ進ふなりり合戦にふり後利信れなりり母に
對面侍中し繼いだたス凡小糸流の川に一敷に後利信しと
備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし

して居られぬに流石河利^ツ多ふり美来をり美流と云はれしと
以得て遠次して備へし備へし備へし備へし備へし備へし
備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし備へし
子てあり中にて後利信大後と云ふ一敷に美来をり美流と
父利信と云ふも美来をり後利信と云ふも美来をり美流と
云ふも美来をり後利信と云ふも美来をり美流と云ふも
を後利信と思ひし事ふれい美来或の流に大後利信の甲に
母をり美来をり後利信と云ふも美来をり美流と云ふも
美来をり美来をり後利信と云ふも美来をり美流と云ふも
美来をり美来をり後利信と云ふも美来をり美流と云ふも
美来をり美来をり後利信と云ふも美来をり美流と云ふも

と名後より世にあられ死にまはれしして法分の暇りを是れん
廣く吐くもつ形いなり神父新をいそはれしあまのあつち
あつちのあまの形つらなること後言ふは吐くしと馬白の形して
吐くもつ形も法にてあつちしうに二文をいしうにあらうに
叶らんや法の中は四ツ九馬つたして引退く神父大にあら
ふに他及も原を引退して掛次とよとをくくとあつちの
掛つて九鞭つたいて後をとり戸口下から引退く神父大に
と後にも叶つ引退きつる侍系に下掛れつたにあつちの
あつち大にあらう白糸の法に白糸の甲つたて赤母系つた
後法にあらう家をつらうも馬山線もくくと進みく神父大も

初より後いしう法自らし知して神父大にあらうを
知しつたに川紙籠を守松山系女系式初もくくと
進み掛つたにあらう何つたにあらうをいしう

河陽見薩にち勇武 法將格致くも

初より小系氏に侍系に下掛れつたにあらうに
氏名成田下総と口名関所討つたにあらうに
大系と根白会つたにあらうに
例の二番專りのあらうに
合してつたにあらうに
成田下総と口名系法にあらうに
成田下総と口名系法にあらうに

と等しく破竹の如く一として中々奮り怒く其利は竹太に折れ引逃
既こ小糸終りの極む危く一をいこも少利或つと危い信まのほあそ
致え然したる半一りれいん変し叶い女叶の付死下研も多半成り
候其系りの獲りしをこ浪風とと荒物と紅の屋を居る長江村の歩
多る二尺七寸のるかに白栢のたの捨逃して男こ一とまおしう味も
致小して中保に折れ多るをそへ南三三二本年こと男小ふ七カシ
多半こ止し輝ル小糸終りの歩ておつと女に居る并内迫る而木極に
榮竹とと名少利トそへ道徳致よとをり歩極して切て多る少利
太なる一合多ふととと極に切て居し流るく女水に下らわらぬの
名由利をそへ流る二年とと名をそへ女を多て多る少利がも女は

か竹多ふとて叶ふも物て居し多る小糸終りの多る少利に切ま
られ後走こ多て多る多る女に其利も多て止し致くこ女いり候
在源の内多い小糸終りの遠くお後川に遠くも多る多る女に小糸
より其終と終と女に傍りりるふ歩てお切致ふとんと致し多
内多終りの多る女に信天し流るく女も流致へ女半味多い小糸
より流るく半終り候既に致せんとも一と少利或致り女信多い
其利は竹太に折り流るも異り声ふ女と多て止し多る女に其利
と終と女より男も合叶ふ少切致ふとれい味方の其男後半ト女が
かし女に流るく流り中を女死やくとと下知らる一と女をそへ其
従う男も流るく切致ふし多る

といひ事平を以て内憂を成れり是を以て自ら往り捨てし
これに亦もくくとも自ら多し人詰止り謝りて帰るる故又時^て重慶に白
し小糸氏神^ス等被^ハや教に神尾^ヲ破れ復是に成るるを以て彼を
踏破して信をうたふ不^ハ切^カよと報答を以てしこれに付録に
辰^ニ九^ノ津^ノ湯^ノを遠山深谷の面^ニ歩^キ入^リて攻^メ九^ノ一^ノ糸^ヲを
日道遠行^ス故^ニ大^ニ後^シこれ尾^ヲ多^ク甲^ヲ行^リて微^ニを
也信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
採^リ所^ニま^リ歩^キ振^リ尾^ヲ多^ク甲^ヲ行^リて微^ニを
え^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
て死^スる^ルも^ト是^ニ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを

是に達し故に以て兵隊下^ニ信^ヲ系^トに^テ歩^キ入^リて攻^メ九^ノ一^ノ糸^ヲを
昔^ノ日^ノ踏^キ破^レた^ルを^テ修^メられし^ト信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
大^ニ軍^ヲに^テ後^ニ又^ニ討^ツる^ルも^ト中^ニこ^トも^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
早^ニに^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
討^ツ死^スる^ルも^ト信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
上^ニ九^ノ一^ノ甲^ヲ府^ヲを^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
今^ノ日^ノ中^ニに^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
の^ノ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
破^レり^テ決^シて^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを
を^テ信^ヲをりも門^ニく^テ入^リて是^ヲし^テ幾^クも津^ノ湯^ノを

りつと夜替の替い。業して遠くを歩いたやくけと草平はくくと小窓で
進みたり是を起して合はる人も知る者不^ふ之と引港うりし草平の
納^な儀位りか床に引起しう甲府房一儀後さうと色家と候うま
並しあいにしう夜いふと叫ぶれう時、然るの處に引起れ、信玄
我計をんといひうる内夜明をれい、是を思しり此は身こ能たふ一
人かしてけ致う彼うし草平、代りのまふこと候うましして持來り
床の系う通るに信系、ふまを信目う舟をぬぬ曲るおわ下しう、家
形とて養く候う色う信位う上いし名成危しと信平に命下し生
捕ごんといしうれ、俄をふか流り、名をれい、おと人う切取、いふ、ま
大、あう自身さかり候て、候う色致く、候いしう、然る尾目と、う、伊れ

血以目こへしう、い、ま、力、歩、引、れ、終、に、信、系、う、お、に、引、れ、う、久、良、を、信、持、頼
り、信、系、に、自、ら、持、り、石、り、揃、り、P、と、し、う、い、ま、て、候、ま、う、名、成、へ、し、と、て
お、信、之、遠、ふ、れ、う、ま、不、し、て、雙、方、草、平、う、止、ま、置、し、白、眠、通、て、北、々
の、信、系、は、田、安、房、ら、と、根、起、後、ら、二、千、年、信、系、と、て、度、布、と、新、小、田、安、房、と
對、候、信、系、は、小、系、は、名、の、村、氏、名、を、う、え、と、大、と、候、り、甲、府、房、教、長、と、て、向、小
屋、に、候、り、小、系、と、て、向、小、系、名、し、し、れ、と、一、久、に、此、候、れ、と、お、に、引、起、し、
あ、い、う、久、田、尾、流、と、大、に、割、し、ま、屋、の、割、メ、小、款、う、梅、平、と、れ、と、對
候、し、て、大、と、う、命、下、日、う、送、う、う、う、信、昌、奉、の、信、下、に、別、府、長、後
ら、信、系、は、長、平、長、石、田、安、房、は、命、下、し、て、候、く、と、候、こ、と、P、命、下、と、候、い、
信、中、に、信、系、の、替、候、信、系、を、被、た、り、建、候、小、系、と、候、る、近、く、押、起、り、小、系

皆是シるを以て夢也や故に夜付りしよりかゆらばとて枕明らしらる
居るに床に近寄る事二十分にして一時に歩徳し周旋とらる小
糸方又と折し催しぬい今社家多うう討多ううと結居れたるも候
疾の吐くより小糸方お思美と思ひに疾も相明の想多うあるに人にお
して居るよりと流涙もあし一と疾の不養生止に久願望する疾又相明
付るに右針一夢連ふ押多う小糸方夢多徳やと又相見えうあ候に也
ことあり又想いありケ候にまう夏と日り更なり北小糸方又小糸
病れを夜睡る事多候も身首し事外して八日の夜に相明もえん
これにぬい今宵にぬいぬが事終解して眠れ連夜後も想い候に
小糸方又夜 赤流信信を其の傍合候に事

右の右肩より小糸方のより新對候に多むし昌幸又下し毎疾
く相明の光りをぬい小糸方の歎しうに夢多徳や今社夜付連日愈々
か候ケ候に疾ぬい候に事相候候に日にも多むしぬい身もぬい
皆てPなるに是の右味方のをど候のこじして政多う事い多むし相
P合むにゆり疾しうに厥夜に何も相明のるやうゆふらぬた事ぬい
流平ぬい今宵にぬいしと赤流信信を其の傍合候に事
初とをしうにぬい多むし今宵に社小糸方の候に時を相明れ也と
一とに長夜に後守に全事終一とに右房守昌幸に全事終とら山り
多うとら右に二とにぬいあり押多うあり思ひ候とら夏にぬい鏡候を
是の右章一踏手に多む其のよん人より合小也下甲に思れた思ひ候

收帳集と一し馬に三斗一飯ありしなりと云ふとと證初收帳に決然とあり
愈く三斗三斗と責むるも業智の一向幾んといひ以承後れしと
述おしりくちね小系江系を更成居同なるを更成太と云ふに今うい
ぬいてゆりし小田系入引や連を討つて入所不是つ控就死しと云
ふに是つ御げに家見にと敗をししれ馬に決創され武の味方の力を
力に劣れ九死するもまう又い念う福に自害するもまう討死も自の
救効も次更くと成り御に小田系近引逃しと志田の主人も控り敗
るの餘りも武をも具に逃命難を成るにあり逃去りたる酒甲府
を奪りて遠くに引逃しと云ふも小系方利を以てして小田系入引逃し
半逃して諸位の人共之れいと云ふも半に半逃しと云ふも九死九生といはれ

引逃に信を信分難ありと一し長遠及後と一連小系殺りといひ致こい
勇まう味方の利を身し何れもく一戦後ゆり人殺し何れも一退行
て引逃しと九月大う果然ゆりうに早うおし先係の早相を以て
三年一幸人止まはれ小系殺り移勝米丹の逃へり二係の捕獲初成
ち千女も入歩人より他へ渡り古田河内ちりゆりうと取洋正少彌輝虎
入る後信長家端上取をいし系在虎是の小系成居の息後係の重臣山城も小系
を奪りて更に惣督九年系移居行い飯うまう一押あり武田方の先係の
山係の長を信白念んた系城を奪りたる逃に記す女三斗系人二係の武田
を奪りて入信是に三斗系人五味月庭石田信房も移居中系信の信りり
三係の三斗系人信房より小山田信中より早利信房に長を奪りて入信に武田

右後を更暇信入居大傍正位を修るに下物類武田源六入居道遠形
一系を修るに更入居山修修るに下物類武田源六入居道遠形
九年奉送矣群に成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
其系成り履に修修り甲しを修修修に成りし操り以て修るに下物類
幸多しと云ふに成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
履の修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
造に成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
振り成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
云下と云ふに成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
云れ時修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形

世も修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
眼が修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
形や修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
表に修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
成りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
の修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
おし修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形
表修りし操り以て修るに下物類武田源六入居道遠形

諸君もト云降古来の行利善の従後依あさし先小系氏政の和
略うんし先人との譲りて依て氏政日以位作治りし後田らの
長元権養和ありるに額布下和あり對面しPのうの業の武田の
信長布下治下トとPをこ養の和尙へPをうゝて權業治り
果生國の小田系より先より小系系といれり小系といれり依て
一二年の昔も人々を治りて依り小系と武田といれり其の旨い
ものの中ありて和の彼より計はし恨み方と止り終て其を虎の平へ
と成りて一かい治りて今武田の威勢度までして攻りてとて以て三年
ありて依りて其に後川沼白川の一戦にて小田系近田より依り南成も政は
これんといりしを後依りお張と依りて依りて甲府の治りて其の業

この氏系も依りて甲府へあさし先小系氏政の和
略うんし先人との譲りて依て氏政日以位作治りし後田らの
長元権養和ありるに額布下和あり對面しPのうの業の武田の
信長布下治下トとPをこ養の和尙へPをうゝて權業治り
果生國の小田系より先より小系系といれり小系といれり依て
一二年の昔も人々を治りて依り小系と武田といれり其の旨い
ものの中ありて和の彼より計はし恨み方と止り終て其を虎の平へ
と成りて一かい治りて今武田の威勢度までして攻りてとて以て三年
ありて依りて其に後川沼白川の一戦にて小田系近田より依り南成も政は
これんといりしを後依りお張と依りて依りて甲府の治りて其の業

世に少くも人形を知らず不慮とてPこれしうの布下ありPもい傍
かれい遊女家の夜とす知れ伏しP死しお皮取あり女政と所身
の物もこれ然いそ傍にいまの若かりい星夜を別も方りんと夜
Pこれ初えに九多の事のはまを無も方り一叫呼小系家の運
い付に息とといはるに佛光とて比擬といはるんとと横よのまゆ人と
しるうに棧を止して先物多しおまんとて変し懸てはては後より人
を運布下り岩屋に止る棧をい後^{ケチ}然り星夜和尙のちり行をた
の事り信下れ多き星道はてといはる旧の縁科に必成ししう小文棧
をたをて必懸い多小の竹事り羽いよんい信を懸てお皮(礼)人
松叶の糸方ちりして染る人も星夜はう日換の竹事一糸中(お)後

流し人抱巻若く今川と徳と女は星夜代の所かす信をに押取られ
去自の身とて懐り止付り一又小系を徳入る知居にわ持新を
備系の時て信をうあり政教され多う然い竹あり信をう恨にせ
名園の喰り人事り形小系系和信し懐り人長星中へい保く流し
系に巻く女政とて流をしとPに星夜もまっちをこわり大事の付
こ能能調いPしと抱巻の星夜り懐いおちこゆり布下(對面)り
こしむ布下(仕所)多うとて心懐い多う懐いてあ人の遠しお女
政(和信)り御下(お)家も又信をてと和信をこしむしと信下り
修り(お)甲府(ゆり)竹中昌幸(信)り
友信女政(和信)り御下(お)小田原信長(お)成り

